


メールマガジンアーカイブ

2008/10/23 井上さん、ついに投資家になる！！(5)

[メルマガアーカイブTOPに戻る](#)[リスクマネジメントラボラトリーのHPへ](#)


すぐにできる！ Vol.18
忙しいドクターのための資産運用

～ 井上さん、ついに投資家になる！！(5)～

こんにちは、リスクマネジメント・ラボラトリー 代表の中澤です。

このシリーズでは積立投資についてRML社のスタッフの例を対談形式でお伝えしたいと思います。

36歳女性・RML社IT戦略室の井上が、将来の為に資産運用をどうすればよいか？（まったくの素人）相談を始めました。。。



[前回のコラム「井上さん、ついに投資家になる！！\(4\)」バックナンバーへリンク](#)

井上さんの投資の現状(2008年9月末)

	累計投資額	現在の評価額	評価損益	評価損益率
2008年6月末	2,100,000	1,853,005	-246,995	-11.76%
2008年9月末	2,400,000	1,789,743	-610,257	-25.42%

毎月の積立	1,000,000	2007年9月から毎月10万円。累計投資月数13ヶ月。
2008年2月	500,000	毎月積立している4種類のファンドを追加購入。
2008年4月	600,000	数年で解約する可能性もある資金なので海外債券ファンドを購入。

- 後日 -

井上 すごいことになっていますね。

中澤 9月15日のリーマンショックから連日のように大きく株価が値下がりしています。為替も急激な円高になっていますから井上さんが持っている投資信託も大きく値下がりしています。



井上 私の場合は今すぐに取り崩す予定がない資金なので問題ないのですが、これからどうなっていくんですか？

中澤 当面このような動きがつづくのではないのでしょうか？ただ、必ずどこかで値下がりが止まるときがきます。例えば日本を代表する企業でトヨタ自動車がありますが、トヨタは昨年約1兆1千億円の利益を出しています。直近のトヨタの時価総額は約11兆円。つまり11兆円だせばトヨタ発行済み株式を全て手に入れトヨタのオーナーになることができ、毎年1兆円強の利益を手にすることができるわけです。まあ、すべてがキャッシュでないにせよ約10%の投資利回りですね。10年で投資元本を回収できますから悪い投資ではないと思いませんか？

井上 確かにそうですね。

中澤 ところがまだ値下がりがとまりません。これは大きく分けて2つの理由があると思います。一つは心理的なもので、今は合理的な判断より、とにかく値動きがあるものを避けたい、という気持ちが投資家の間で強いということです。このような大幅な下落時にはそのように思うこともある意味自然ですよ。二つ目の理由は、去年は1兆円強の利益が出たけれど来年は景気の減速もあり減益になることを市場が予想しているということです。去年は1兆円だとしても来年が仮に5000億円だとするとまだ少し割高かもしれませんよね。

井上 なるほど。新聞などにも減益と書いてありますね。

中澤 パニックでとにかく手放したい、と保有株式を売却している人もいますが、一方で『お買い得』な水準を探している人もいます。どんどん株価が値下がりしていくといつかは必ず『お買い得』な水準になるはずですよ。今のパニック的な売りがもう少し続くとはいいますが、その後ある程度合理的な判断ができる時がくると思います。

井上 トヨタはまだ何とかかなりそうですがGMとかはずいぶん問題がありそうですね。

中澤 それも重要なポイントです。GMだって昔はアメリカを代表する、いや世界を代表する企業でした。でも今はその評価は地に落ちています。さっき話をしたいつかは合理的な判断が働く、その元となる利益が出ないのです。利益が将来にわたって出ないのであればいつまでたっても株価の下落は止まりませんし、反転も難しいでしょう。

井上 ではどうすればいいのですか？

中澤 一つはよく調査・情報収集をしてこの大変動の後もきちんと利益を出していける企業に投資をすること、もう一つが投資信託などを利用し幅広く分散投資をすることです。

投資信託を使うことで世界中の何千もの企業の株式に投資ができるので、その全てがなくなったりすることはありませんし、また、時間軸の中で経済全体も回復していきますからその恩恵をうけることができます。



井上 為替なんかはずいぶん急激に円高になりましたね。

中澤 大きな値動きが続くと、株式でも為替でもとにかく値動きがあるものは同じように見えてしまうのですが価格変動のメカニズムが根本的に異なります。株式や債券などのようにキャッシュフローを生み出すものはそのキャッシュフローに照らし合わせて『お買い得』な水準が決まってきます。

一方、為替や金などの商品はどうでしょう。金を保有していても金を生みませんよね。つまりキャッシュフローを生み出さないものは合理的な水準がどのぐらいかの判断はとても難しいと思います。

井上 いつかは必ず『お買い得』な水準がくるのならその時買い増しをしたほうが良いですよ。

中澤 これだけ下がっていますので買い増しは良いと思います。または、今のようにマーケットが低迷している間は**一時的に積立額を増額するのも良いでしょう**。ただあくまでも当面使う予定がない資金でしてくださいね。

井上 検討して見ます。

	20%	10%	50%	20%	100%	100%
	日本大型株ファンド	日本小型株ファンド	海外株式ファンド	アジア株式ファンド	ポートフォリオの推移	国際分散型バランスファンド
2007年9月	200,000	100,000	500,000	200,000	1,000,000	1,000,000
2007年12月	182,545	90,123	481,786	190,686	945,141	954,015
2008年3月	150,988	68,768	380,832	137,950	738,538	819,982
2008年6月	164,223	71,114	396,005	136,826	768,168	849,220
2008年9月	136,177	55,008	319,970	99,284	610,439	735,883

上記表は、2007年9月末に上記配分で100万円の投資を開始したとして、その後の基準月末の各ファンドの基準価額等および投資ポートフォリオの推移を表したもので当コラムを理解するための手助けを目的として作成をしています。月次の積立や追加の購入は反映していません。

【投資信託の手数料について】

- ・保有にかかわる信託報酬については控除後です。
- ・購入時手数料については考慮していません。
- ・分配金が出た場合は非課税で再投資をするものとします。

以上のような理由によりコラムの内容および実際の投資成果とは異なります。データについては信頼できるものを利用してありますが正確性を保証するものではありません。


上記表は株式市場の変動やその推移が実際の商品や資産形成に与える影響を擬似的に体験するためのもので、この表をもって特定の商品を推奨するものではありません。また、採用している投資信託は元本を保証するものではありませんので解約時期によっては元本割れをする場合があります。このコラムは2008年10月8日に行われた面談をもとに書かれています。

コラムでは株式のみのポートフォリオを採用しているため、参考までに債券が含まれた国際分散型バランスファンドのデータも併記しています。

国際分散型バランスファンドの基本資産配分

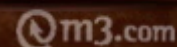
- 日本大型株式: 23%
- 日本小型株式: 10%
- 米国株式: 15%
- 欧州株式: 13%
- アジア太平洋株式: 4%
- 日本債券: 17%
- 海外債券: 18%

投資についての疑問、質問等はまずはお気軽にメールにてご相談ください。メールにて対応させていただきます。

 積立投資について、相談したい

是非、コンシェルジュにご相談ください！

[▲ PAGE TOP](#)



Copyright 2013 RML. All Rights Reserved.